

国語科学習指導案

日 時 平成30年6月1日（金）公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
1年D組 35名
会 場 集会室
授業者 西澤孝司

1 単元名 「○○○を見る目」～筆者の書きぶりに学ぶ～

2 単元について

(1) 学習者観

- ・「オオカミを見る目」は中学校で学習する初めての説明的文章の学習材である。説明的文章における生徒の意識アンケートによると、文学的文章に比べ苦手意識を抱いている生徒が多かった。しかし、説明的文章の学習が日常生活に関係があるかの問いに対しては、関係性、必要性を感じている生徒は多かった。
- ・小学校での説明的文章の学習履歴を調査したところ、「段落ごとに要旨をまとめる学習」「筆者の主張を捉える学習」「図表と関連付けて読む学習」などを行ってきたことが分かった。
- ・入学後は、詩を題材に情景や作者の思いを想像し、音読で表現したり、日常での発見を表現技法を使って詩で表現したりする学習を行った。

(2) 学習材観

中心学習材 『オオカミを見る目』（「新しい国語1年」東京書籍）

補助学習材 『タヌキ学入門』高槻成紀（新潮文庫）

『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』内山節（講談社）

『犬の日本史』谷口研語（吉川弘文館）

『猫の日本史』桐野作人（洋泉社）

- ・本学習材は、人々のものの見方が時代や社会的な背景によって変わること、明確な文章構成で伝える説明的な文章である。また、日本と西洋、今と昔におけるオオカミの見方の違いを対比的に示しながら、筆者の主張が述べられている。さらには、指示語や接続の表現が的確に用いられ、問い・答え・筆者の主張という分かりやすい論理展開になっている。これらのことから、中学校第1学年において、文章の構成や展開を学習をする上でふさわしい学習材であると考えられる。
- ・文章の内容も、学習者の知的好奇心をくすぐり、視野を広くするものであるから、生徒の興味・関心を大切にして内容の読解を行い、筆者のものの見方や考え方を捉えさせることが可能であると考えられる。
- ・補助学習材はいずれもその動物の歴史や生態系等についてふれた文章である。本単元の最後に自分が選んだ動物について、筆者の構成や説明の工夫を取り入れて書く際に、これらの本から得た情報を活用させる。また、個人でもインターネットを利用して調査する時間を設け、これらの資料と重ね合わせて読ませたい。

(3) 学びの本質に迫る指導とその評価について

本校国語科において育成すべき資質能力を「ことばの力」と設定している。本単元において育成すべき「ことばの力」を以下の通り示す。

① 「ことばの力」をもとに解釈し、批評する力

学習者は、小学校の説明的文章の学習では、段落ごとに要旨をまとめる学習、三段構成に分ける学習、筆者の主張を読み取り自分の意見を書く学習などを行ってきた。本単元では、前述した通り、中学校で初めての説明的文章の学習になることから、文章の構成や説明の工夫を学習することはもちろんのこと、互いに学び合う中で「批判的に文章を読む」という新たな学習視点に気づかせたい。生徒たちは今後様々な文章と出会うことになる。その際に書かれてある内容理解だけでは

なく、構成や説明の工夫などを自分の力で客観的にとらえ、評価できるような学習者の育成を目指していきたい。

② 対話を通して創造する力

本単元ではテキストとの対話、自己との対話、他者との対話が効果的に学習に作用するよう位置付けていきたいと考える。特に他者との対話が効果的に働くような話題を設定したり、自己の考えを醸成させる自己内対話の時間を確保したりしながら学習を展開していきたい。

テキストとの対話では、筆者の説明の工夫や良さを見つける力を育てたい。このように視点を明確にしてテキストと対話することで、目的意識が明確になり意図的なテキストとの対話が可能になると考える。また、単元の学習の最後には、自分たちが書いた説明文とも対話をさせ、それを評価させる。

自己との対話については、個人で考える時間の保障や考えをまとめるシートの工夫を通し、考えを整理したり、理解を深めたりする力の育成を図りたい。

他者との対話については、学習者は国語の授業開きの際に4人グループで話し合いの進め方を確認したり、実際に話し合いを行ったりしながら話し合いについて考えてきた。小学校での経験も踏まえ他者と考えを交流し、新しい考えを生み出していくことの価値についても考えた。本単元でもグループでの話し合いの時間を意図的に設けていきたい。このようにグループの中で互いの考えを出し合い、それぞれの考えをまとめたり、他者の考えの良さに気付かせたりする学習をすることで、他者から学び自分の考えを広げる力を育てたい。

③ 発信する力

本単元の第三次では第二次で学習したことを活かし、「〇〇〇を見る目」と題して説明文を書く活動を行う。筆者の説明の工夫から学んだ対比構造を使った説明、段落相互の関係が明確になるような接続する語句を使って表現させる。本単元のゴールとして学びの成果を他者に発信させたい。

また、上記のような「ことばの力」を育成するために、以下の手立てを講じることとする。

① 学びの本質に迫る指導

本単元では、文章構成や筆者の説明の工夫や良さをとらえ、それを自らの表現に役立てられる生徒を育成することを目指したい。特に対比構造を使って説明をしている点、段落相互の関係を分かりやすく示すための接続する語句の活用に着目させたいと考えている。本学習材「オオカミを見る目」は学習者の知的好奇心をくすぐる題材であると考え。その内容面としての価値も利用し、本単元のゴールとして、「〇〇〇を見る目」と題し、自分が選んだ動物を説明する文章を書かせることとする。筆者の説明の工夫を参考にしながら、自分が興味をもった動物について説明する文章を書く活動に向かって学習者は興味関心を持ち、主体的に学習を進めることができると考える。

第一次では小学校での説明的文章の学習を振り返り、本単元での学習の見通しとゴールを明確にさせてから、学習者にテキストと出わせたい。また、初読の段階で筆者の説明の工夫や良さを記述させたい。単元の学習前後での変容をメタ認知できるようにさせて、学習後の成就感へとつなげさせることをねらう。

第二次ではテキストを構造図にまとめさせながら内容と文章構造を理解させていきたい。序論・本論・結論の三段構成といった基本構造を学習させる。また、段落構成図を作成させ、それに段落ごとの要点や工夫等を書きこませながら、文章の構造、展開を捉えさせたい。その中で、特に分かりやすい説明にするために、対比構造を用いて説明している点、段落相互の関係を明確にするための接続する語句の効果的な使用に焦点を置きたいと考える。本単元の第4時ではそれらの効果や良さを確認し、それらを用いて説明文を書き、書いた説明文を評価し合うための基準として活用させ、指導者と学習者が一緒になってゴールを確認し、共有する場としたい。

第三次では第二次での学習を踏まえ、「〇〇〇を見る目」と題し、自分が選んだ動物を説明する文章を書かせる。自分自身の杞憂の知識やこれまでの経験、指導者が用意した資料と、学習者自身がインターネットを利用して集めた資料を活用し書かせる。インターネットでの調査は同じ動物を選んだグループで協働的に取り組ませることで効率化を図りたいと考える。このようにして集めた資料を活用させながら、第二次第4時でまとめた、筆者の工夫を意識させ説明文を書かせたい。また、本単元の最後には自分たちが書いた説明文を読み合う。その際、筆者の工夫を効果的に取り入れて説明文を書けたかどうか、互いに評価させたい。

② 学びの本質に迫るための評価

本単元では学びの本質に迫るための評価の手立てとしてOPPシートを用いる。毎時間の振り返りを記述するとともに、読み取った筆者の説明の工夫や良さ、分かりやすい説明についてなど、獲得した知識や、思考したことをまとめさせたい。

また、第二次第4時には筆者の説明の工夫や良さをまとめ、それにしがって説明文を書かせる。そしてこのまとめに基づいて自己評価させるなどし、学習者を積極的に評価活動に関わらせていく。その後、特に自己評価できていない点について指導者からコメントでフィードバックを行う。これらの活動を通して学習者に言葉による見方・考え方の深まりを自覚化させたい。

③ 学びの本質に迫ったかを見とる評価

「知識・技能」については、定期テストに問題を位置づけ、その結果を評定に結び付ける。

「思考力・判断力・表現力」については第三次に、これまでの学習を活かして説明文を書かせる活動を行い、その記述を評価対象とする。また、説明文を確かな根拠をもって評価することができたかについても単元の「思考力・判断力・表現力」の評価とする。

「主体的に学習に取り組む態度」については、毎時間評価し、それらをポートフォリオ的に蓄積して評定に結び付ける。

3 単元の指導目標及び評価規準

(1) 指導目標

構成や展開、表現の効果をとらえながら説明文を読ませる。

(2) 評価規準 (○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価)

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
○ 接続する語句の役割について理解を深め、適切に使うことができている。((1) -エ)	○● 文章の構成や展開、表現の効果をとらえ、適切に表現することを通して自分の考えを深めている。(C-エ)	○● 説明的文章における分かりやすい説明を探るために、積極的に人と関わったり、進んでテキストを読もうとしたりしている。

(3) 単元の指導計画及び評価計画 (○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価)

次	時	学習活動	評価規準	評価の観点		
				知技	思辨	態度
1	1	1. これまでの説明的文章の学習を振り返る。 ◇ 既習事項(学習用語)の確認をする。 2. 学習課題を設定する。 3. 単元の見通しをもつ。 4. 『オオカミを見る目』を読み、感想を書く。 ◇ 内容に関する感想と書きぶりに関する感想をかく。	態○ 単元の学習の見通しをもつとともに、これまでの学習経験を活かしながら「オオカミを見る目」を読み、感想を書こうとしている。			○
2	2	1. 文章全体の展開や構造を捉える。 ◇ 三段構造(序論・本論・結論)を確認する。 2. グループで話し合う。 3. 全体で話し合う。 4. 筆者の主張を捉える。 5. 全体で話し合う。	思○ 文章全体の内容と構造を理解しながら序論・本論・結論に分けている。 態○ 文章の構造について、積極的にグループで話し合おうとしている。		○	○

3	<p>1. 問いに対する答えの提示の仕方（本論の展開）について考える。 ◇ 構成図を作成する。</p> <p>2. グループで話し合う。</p> <p>3. 全体で話し合う。</p>	<p>知○ 接続する語句の役割を理解している。</p> <p>思○ 接続する語句の役割や構成を理解しながら本論の展開を構成図に表わしている。</p> <p>態○ 本論の展開について、積極的にグループで話し合おうとしている。</p>	○	○	○
4	<p>1. 筆者の書き方の特徴を分析的にとらえその工夫や効果について考える。 ◇ 対比構造に着目する</p> <p>2. グループで話し合う。</p> <p>3. 全体で話し合う。 ◇ 「オオカミを見る目」の説明の工夫をまとめる。（説明文を書いたり、評価したりする際の観点）</p>	<p>知○ 接続する語句の役割を理解している。</p> <p>思○ 文章の構成や説明の工夫やその効果について理解し、まとめている。</p> <p>態● 文章の構成や筆者の書き方の特徴やその効果について、積極的に交流しようとしている。</p>	○	○	●
3	<p>5</p> <p>1. 文章を書くための資料を集める ◇配布資料を読む。 ◇インターネットで調査を行う。</p>	<p>態○ 説明的文章における分かりやすい説明を探るために積極的に人と関わったり、進んでテキストを読もうとしたりしている。</p>			○
6	<p>1. 集めた資料を読み、文章を書くために必要な情報を整理したり、構成を考えたりする。 ◇対比を意識させる。 ◇三段構成。</p>	<p>思○ 説明文を書くために、展開や説明の仕方を考えようとしている。</p> <p>態○ 集めた資料を分類したり整理したりしようとしている。</p>		○	○
7	<p>1. 筆者の説明の工夫を活かし文章を書く。 ◇「○○○を見る目」と題し、自分が選んだ動物を説明する文章を書く。</p> <p>2. 書いた文章を観点にしたがって自己評価する。</p>	<p>知○ 接続する語句の役割を理解している。</p> <p>思● 文章の構成や筆者の説明の工夫やその効果について理解し説明文の中で表現している。</p> <p>態○ 学習したことを踏まえ、説明文を書こうとしている。</p>	○	●	○
8 本時	<p>1. 書いた文章を読み合い評価する。 ◇「筆者の工夫を活効果的に取り入れることができているか」評価する。</p> <p>2. グループで評価結果を交流する。</p> <p>3. 全体で交流する</p> <p>4. 単元を振り返る。</p>	<p>思● 書いた説明文を筆者の構成や説明の工夫と比較して読み、自分の考えを確かなものになっている。</p> <p>態● 書いた説明文観点に従って評価したり、互いの説明文の良さを積極的に交流したりしようとしている。</p>		●	●
学習事項の活用場面	<p>・説明的文章の学習において構成や展開、接続する語句に着目しながら読んだり、筆者の説明の工夫を探ったりしながら読む。</p> <p>・日常生活の中で、説明するときや文章を書くときに学習したことを活かして説明をする。</p>				

4 本時について

(1) 主題

書き上げた説明文を読み合い、互いの良さを評価し合い、単元のまとめをする。

(2) 指導目標

説明文を筆者の構成や説明の工夫と比較して読ませ、分かりやすい説明について理解を深めさせる。

(3) 評価規準

【思考力・判断力・表現力】

- 書いた説明文を筆者の構成や説明の工夫と比較して読み、自分の考えを確かなものになっている。(C-エ)

【主体的に学習に取り組む態度】

- 書いた説明文を観点に従った評価したり、互いの説明文の良さを積極的に交流したりしようとしている。

(4) 指導及び評価の構想

① 本時の指導について

本時は本単元のまとめの一時間として位置付ける。

前時までに「○○○を見る目」と題し、自分が選んだ動物について説明する文章を書かせ、さらには、書いた説明文を観点にしたがって自己評価させ本時に臨ませる。

導入では前時までの学習を振り返り、本時の学習課題、学習の流れを確認させる。

展開ではまず、個人でグループの他のメンバーの説明文を読み評価をさせる。グループは異なる動物を選んだ生徒同士で構成する。メンバー全員分の原稿を手元に用意し、評価の観点に関係ある個所をチェックさせながら読ませ、その評価結果をワークシートに記載させる。その後評価結果やその理由をグループで交流したり、自分が気づいた説明の良さを交流したりさせ、理解を深めさせたい。グループでの交流が終了後、全体交流の時間を設ける。ここでは、評価の良かった説明文を紹介したり、グループで話題になったり、評価が分散したりした点について取り上げたい。このような対話的、協同的な学習を通して、本単元の学習の成果を共有させたい。

終結では単元の学習を振り返らせたい。OPPシートには本単元の学習を振り返り、改めて筆者の説明の工夫をまとめさせたり、習得した言葉の力を自覚させたりしながら本単元のまとめとしたい。

② 本時の評価について

本時の評価にあたっては、本単元の学習を踏まえて書いた説明文が、第二次、第4時でまとめた筆者の説明の工夫を活かして書くことができたか、また他者の説明文を確かな根拠をもって評価することができたかを見とりたい。このまとめ(筆者の工夫)は、学習者と指導者が、二次のまとめと一緒に作成する。本単元では筆者の説明の工夫である、接続する語句の効果的な使用と、対比構造を用いた説明が効果的に使われているかという観点を重点とする。このような観点を指導者が一方的に示すのではなく、学習者と共に作成していくことで、自分たちが書く時に意識したり、評価する時に観定の共有が図られ、学習者を積極的に評価活動に関わらせることが出来ると考える。本時では、書いた説明文を相互評価させる。評価できていない点については事後に教師からコメントでフィードバックを行いたい。

評点	「ことばの力」の評価	
	構成や展開の工夫	説明の工夫
3-とてもよい	・接続する語句を使用して段落相互の関係を明確にして説明文を書いたり、確かな根拠をもって評価したりしている。	・対比構造を効果的に用いながら説明文を書いたり、確かな根拠をもって評価したりしている。
2-よい	・接続する語句を使用して説明文を書いたり、確かな根拠をもって評価したりしている。	・対比構造を用いながら説明文を書いたり、確かな根拠をもって評価したりしている。
1-不十分	・接続する語句を使用して説明文を書いているが、評価や根拠が不十分である。	・対比構造を用いながら説明文を書いているが、評価や根拠が不十分である。

(5) 本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時	指導上の留意点および評価 ・学びの本質に関わる指導の手立て等 ○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価
導入	1. 前時までの学習を振り返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「オオカミを見る目」の説明の特徴や工夫について捉えた。 ・「○○○を見る目」と題し、自分が選んだ動物を説明する文章を書いている。 ・書いた説明文を観点にしたがって自己評価している。 </div> 2. 本時の学習課題を確認し学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【学習課題】 自分たちの書いた説明文を評価し合いお互いの良さを交流しよう。 </div>	5	
展開	3. グループメンバーの説明文を読み評価する。 (3人分) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価の観点】 ☆対比構造を使った説明 ☆接続する語句の使用 ○三段構成(序論・本論・結論) ○問いかけ ○問題提示 ○具体例 ○説明→まとめ </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価の基準】 《対比構造を使った説明》 A: 内容を分かりやすく説明するために効果的に使用している。 B: 使用している。 C: 使用されていない。 《接続する語句の使用》 A: 段落どうしの関係が明確になるように使用している。 B: 使用している。 C: 使用されていない。 </div> 4. 書いた説明文を4人グループで読み合い、互いの良さを交流する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【グループ交流】 ①テーマ: 自分たちの書いた説明文を評価し合い、お互いの良さを交流する。 ②方法: 評価結果を交流し、その理由を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本当にそうなのか。 ・自己評価との違いは。 ・改善案は ・良いところは ・感想 ③進め方: 基本的に自由発言だが、司会者がコーディネートする。 ④帰着点: グループとしてまとめたりするものはないが、それぞれの良さを見つけたり、評価結果を吟味したりする。 </div> 5. グループでの交流の様子を全体で共有する。	15 15 5	態● 書いた説明文を学習した観点に従った評価したり、互いの説明文の良さを積極的に交流したりしようとしている。 ・テキスト(自分たちが書いた説明文)との対話を通し、評価の観点についての理解を深めさせる。 ・グループ交流では、自分の評価と他者の評価の違いからそれぞれの評価の妥当性、理解を深めさせる。 ・全体交流では指導者のコーディネートにより、グループの中で良くできていたものを紹介したり、話題になったことについて全体で共有しながら、「ことばの力」の価値について触れる。
終結	6. 単元の学習を振り返る。 7. 単元の学習を共有する。	5 5	思● 書いた説明文を筆者の構成や説明の工夫と比較して読み、自分の考えを確かなものに行っている。 ・学習前と学習後に自分が捉えた筆者の説明の工夫について比較させ、学びをメタ認知させる。